



中川 悠（NPO法人チュラキューブ 代表理事）



兵庫県伊丹市出身。大阪市立大学大学院 創造都市研究科 卒業。

母方は精神病院経営、父は義肢装具開発者。現在は障がい者福祉・高齢化・産業の低迷など、目の前に起こる「社会の困りごと」を解決すべく2007年に株式会社GIVE&GIFT、2012年にNPO法人チュラキューブ起業。

近畿大学・関西大学などでプロデュースやソーシャルデザインを教える。

障がい者福祉との出会いは、**29歳**。

就職に向けた訓練施設「**B型作業所**」

（全国で12,500施設）で働く障がい者の月給が**約16,000円**ということを知る。

B型作業所に通う障がい者は

330,000人。

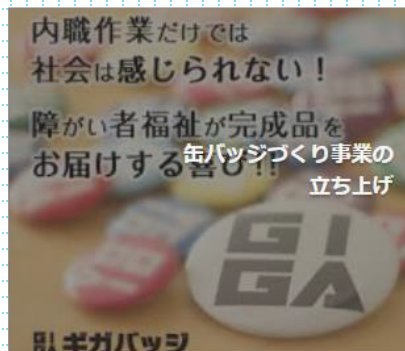
その多くは**生活に困窮**。

障がいのある人たちの工賃向上にかけた10年間



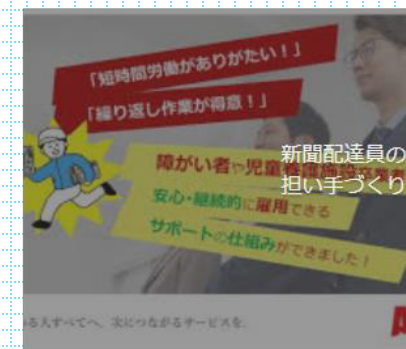
2007～2018

福祉施設の
ビジネスモデルサポート



2018～

後継者不足の産業と
障がい者雇用を
つなげる取り組み



○歴史×観光



観光戦略・地域教育
プロデュース
文化庁 淡路島日本遺産
観光促進プロジェクト
淡路島 日本遺産
(2016～)

○商店街×移住促進



商店街アドバイザー
淡路島の商店街を
地域みんなで活性
よりあいそとまち
SUMOTO
(2018～)

○都市農業×農家支援



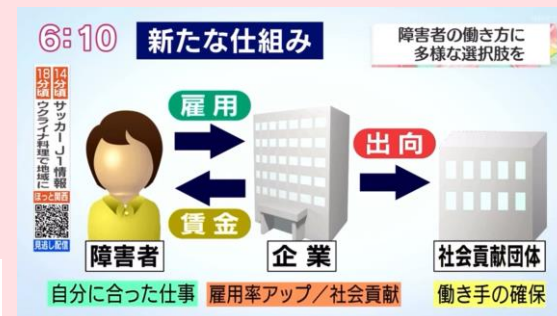
農家と新規ビジネスを立案・運営
大阪市内の野菜農家×大阪市の有志
×種子製造企業×障がい者福祉
大阪市内でのイタリア野菜
「おおさかイタリア野菜研究ラボ (2020～)」
※2022年4月・5月 NHK「ほっと関西」放送
読売放送「TEN」放送

○団地×高齢化×障がい者支援



高齢者の孤食が多い大阪市住吉区の団地で
障がい者が運営するランチ食堂を運営
杉本町みんな食堂 (2018～)

○企業の障がい者雇用×ソーシャルビジネス



企業で働く障がい者スタッフが、地域の社会課題解決の
ヒーローになる。全く新しいソーシャルビジネスを推進
企業の障がい者雇用×障がい者雇用×地域の社会課題
ユニクリク (2019～)
※2022年5月23日 NHK「ほっと関西」放送

○市役所でのプロ人材



奈良県生駒市役所 プロ人材として勤務
コミュニティデザイナー (2022～)

まちづくり



障がい者福祉



発信



教育



企業・NPO・地域 中間支援

○大阪ガス×社内へのCSR



大阪ガス 社内CSRコーディネート
ソーシャルデザイン
フォーラム (2019～)

○大阪ガス×寄付活動



寄付団体の選定・取材・発信
大阪ガス 社会貢献団体への寄付支援
ソーシャルデザイン+
(2022～)

○経済産業省×地域活性



関西の仕掛け人を発掘・取材
経済産業省 近畿経済産業局
関西から「キーパーソン」
を考える会 (2020～)

○大学での講師

関西大学 人間健康学部
(2017～)
社会起業論／雇用政策
近畿大学 文芸学部
文化デザイン学科
(2018～)
アートプロデュース論A

大阪芸術大学
デザイン学部
(2021～)
ソーシャルデザイン

○新聞・書籍・シンポジウム



毎日新聞 月1連載
「あしたに、ちゃれんじ」 (2018～)



大阪万博に向け、連続登壇
日経SDGsフェス大阪・関西
(2020・2021・2022)

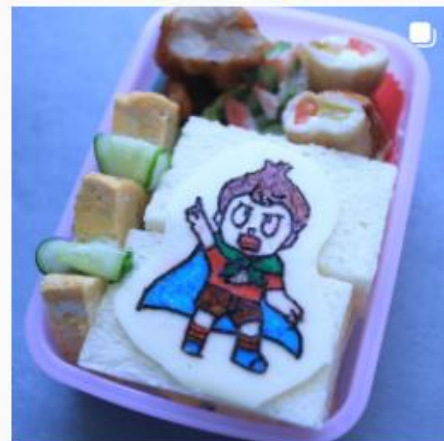
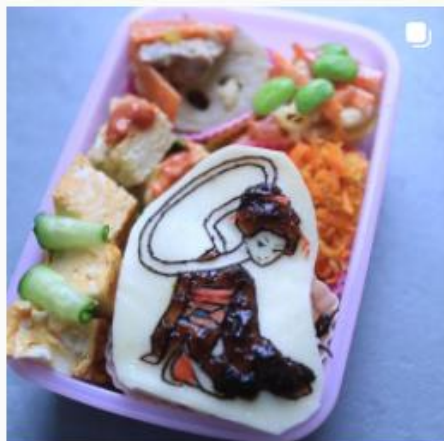
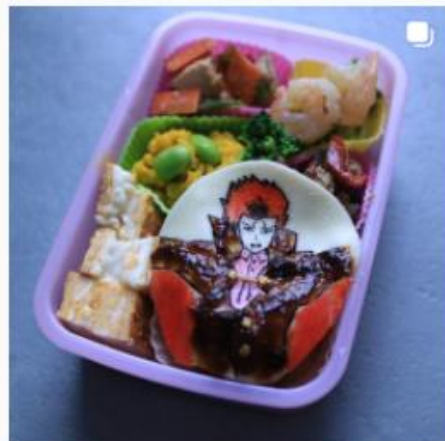
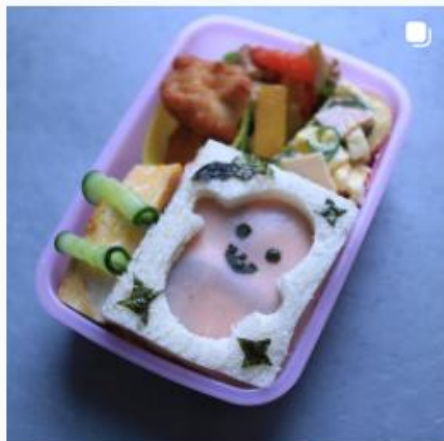
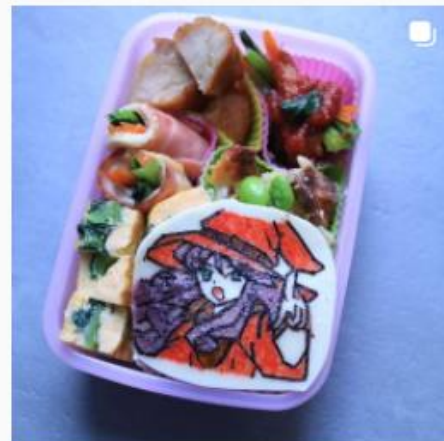
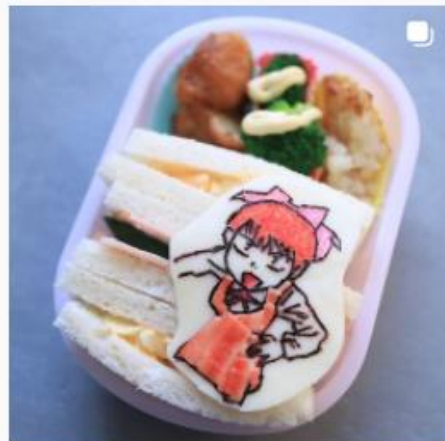


新聞取材をまとめた書籍を出版
SDGs時代のソーシャル
ビジネスが私たちの未来を変える
(SDGs経済出版)

タイムライン



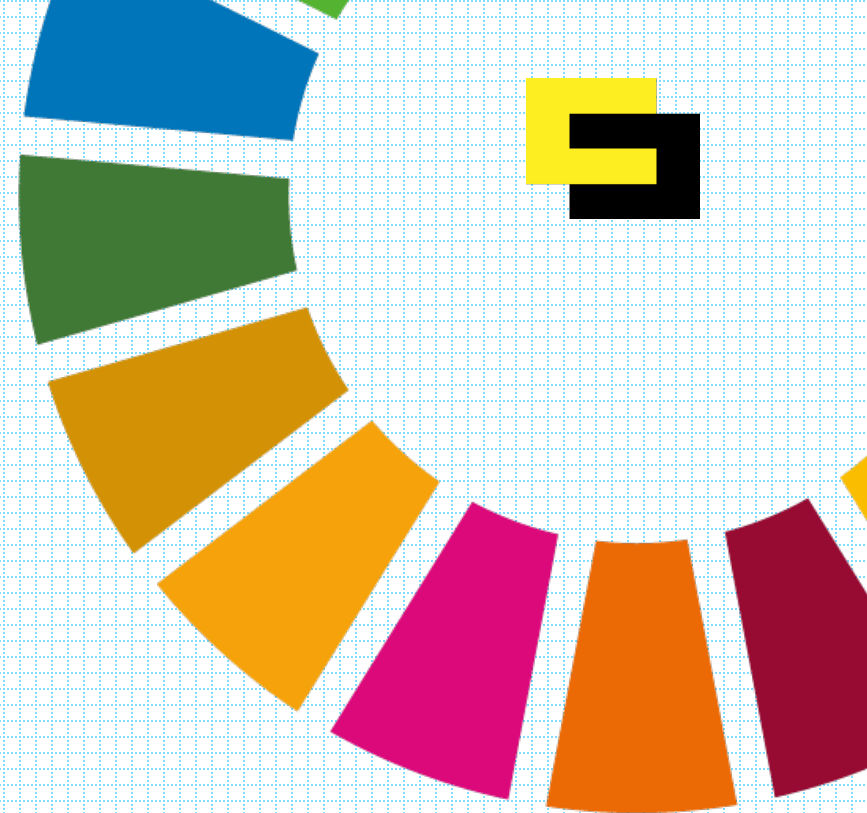
| | 2010 | | | 2020 | | |
|--------|--|---------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------|
| ○社会 | 2015年 マイナンバー制度 | | | 2020年 東京オリンピック、 パラリンピック開催 | 2025年 日本国際博覧会 大阪万博の開催 | |
| ○人口 | 2012年 団塊世代の 大量退職 | | 2020年 女性の2人に1人が 50歳以上に | 2024年 3人に1人が65歳以上 超・高齢者大国へ | 2025年 団塊の世代が後期高齢 者（75歳以上）に | 2025年 東京都が 人口減少に |
| ○災害 | 2011年 東日本大震災 | 2016年 熊本地震 | 2018年 北海道胆振 | 2018年 大阪も大阪北部地震と 台風21号で被災 | 2020年 新型コロナウイルス | 2???年 南海トラフ 巨大地震 |
| ○産業 | 2012年 パナソニックが プラズマテレビ事業を 売却 | | 2014年 シャープが 破綻寸前に | | 2022年 3大都市圏の農地が 消失し、宅地に代わる | |
| | 2017年 みずほ銀行が 19,000人の リストラを発表 | | 2018年 日産自動車 が1万2千人の リストラを発表 | | 2030年 百貨店、銀行、老人 ホームが地方から消える | |
| ○まちづくり | | | | 2021年 介護離職が 大量に発生 | | 2040年 自治体の半数が消滅の 危機に |
| ○教育 | 2015年 聖トマス大学が 閉校 | 2018年 18歳人口が 減りはじめる | 2019年 幼児・保育教育 の無償化へ | | 2020年 大学の入試システムが 大幅に変更 | 2032年 100大学が 消滅の危機に |





Chapter**1**

未来を伝える活動



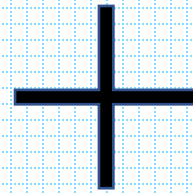


社会の無関心を
関心に変えるには、
一体なにができるだろう？

NPO法人チュラキューブが取り組んでいること



未来を
伝える活動



未来を
共につくる活動

NPO法人チュラキューブが取り組んでいること 未来を伝える活動



未来を
伝える活動

体験イベント

誰もが社会課題に
触れる場を
生み出す



ワークショップ

福祉・農業などの
社会課題を
学ぶ場をつくる



メディア発信

毎日新聞の連載で
優しい社会の
取り組みを発信



NPO法人チュラキューブが取り組んでいること

未来を伝える活動



未来を
伝える活動

体験イベント

誰もが社会課題に触れる場を生み出す



農場に行こう



伝統工芸を見に行こう

NPO法人チュラキューブが取り組んでいること

未来を伝える活動



未来を
伝える活動

ワークショップ

福祉・農業などの社会課題を学ぶ場をつくる



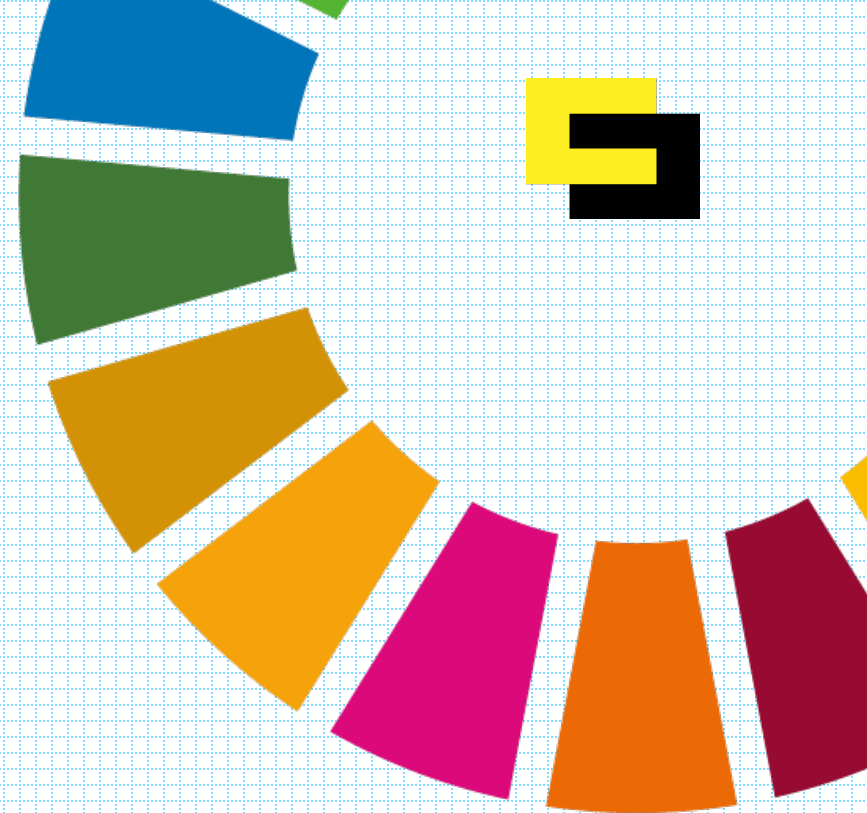
商店街に行こう



学びの場へ行こう

Chapter**2**

未来を共につくる活動



NPO法人チュラキューブが取り組んでいること

未来を共につくる活動



未来を
共につくる活動

障がい者の応援
障がい者と
困っている企業を
結びつける



都市農業の応援
担い手不足の
都会の農業で
ビジネスをつくる



まちづくり
高齢化が進む
商店街を
盛り上げる



基本

CREATIVE ReSTART

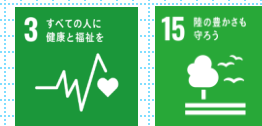
～クリエイティブ・リスタート～



実例 1

大阪市内の都市農業の縮小を応援
飲食店の多い都市部への流通力を活かした

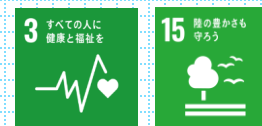
イタリア野菜づくり



実例 2

大阪市内の花農家と障がい者福祉の応援
高齢者福祉施設の介護レクの課題解決

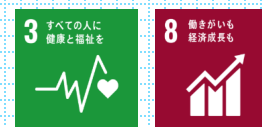
寄せ植えキットの通信販売



実例 3

京都の伝統工芸の後継者不足を
集中力の高い障がい当事者が解決

伝統工芸の後継ぎづくり



実例 4

高齢化が進む団地の102号室で
障がい当事者が高齢者へランチを提供する

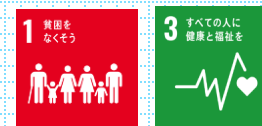
杉本町みんな食堂の運営



実例 5

1000部屋ある築50年のメガマンションで
障がい当事者が地域住民の居場所を運営

平野宮町みんな食堂の運営



NPO法人チュラキューブが取り組んでいること

未来を共につくる活動



CREATIVE ReSTART

～クリエイティブ・リスタート～

課題解決の創造性に満ちた再スタート

SDGs時代の社会課題は、1つだけではなく、1つ1つの問題は根底でつながっています。

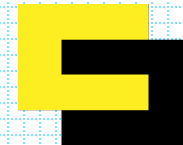
だからこそ、私たちは複数の課題解決のアイデアを**かけ算**し、

今までになかった解決策を**持続可能性**・**経済性**にも配慮しながら、

新しい時代を切り開く、創造性に満ちたスタートが求められています。

NPO法人チュラキューブが取り組んでいること

未来を共につくる活動



CREATIVE ReSTART

～クリエイティブ・リスタート～

01 社会課題の
中にある
ニーズを
さぐる

Reserch

02 チームの
中にある
シーズを
書きだす

Skills Matrix

03 世の中の
先進事例の
アイデアを
しらべる

Marketing

04 2つ以上の
ニーズと
アイデアを
かけ算する

Collaboration



事例 1

大阪市内の都市農業の縮小を応援
飲食店の多い都市部への流通力を活かした
イタリア野菜づくり

都市農業の縮小を応援する

2017年～現在 大阪府大阪市

CLIENT／大阪市経済戦略局

NPO法人チュラキューブが取り組んでいること

未来を共につくる活動



事例 1

大阪市内の都市農業の縮小を応援

飲食店の多い都市部への流通力を活かしたイタリア野菜づくり

01

社会課題の
中にある
ニーズをさぐる

Reserch

生産者の課題

- ・都市部は農地が狭く、流通量が少ない

イタリア料理店の課題

- ・イタリア野菜を遠方や本国から取り寄せている

02

チームの
中にある
シーズを書きだす

Skills Matrix

チームのスキル

- ・仲卸業者を知っている
- ・飲食店のネットワーク
- ・JA大阪市とも連携
- ・花農家のチームとも連携

03

世の中の
先進事例の
アイデアをしらべる

Marketing

ソーシャルビジネス

- ・埼玉や東北でイタリア野菜生産チームが発足している
- ・食べられるエディブルフラワーは高値で取引される
- ・コロナの影響で花農家の低迷を各地で支援している

04

2つ以上の
ニーズと
アイデアをかけ算

Collaboration

ニーズ①：生産者が抱える問題

ハッピー：店舗との距離が近く
少量多品種を提供できる

ニーズ②：飲食店の問題

ハッピー：流通コストを下げて、
イタリア野菜を仕入れる

NPO法人チュラキューブが取り組んでいること 未来を共につくる活動



通常の野菜より
価格UP、
ブランド力UP

農業の全国雑誌
でも紹介される



社会課題

①農地が小さい

24区全部を合わせても大阪城公園よりも小さい。
スーパーに卸せるほどの量が収穫できない。

②なにわの伝統野菜

ほとんどの農家は一般的な野菜を作る。
ブランドである「なにわの伝統野菜」は
収穫時期・生産農家が限られている。

③農業従事者の減少

農家のほとんどが60歳以上。若者は少ない。

ポイント

- ①大阪は東京に次いで
イタリア料理店が多い
- ②有名イタリア料理店は
本場イタリアから野菜を空輸し
価格も高く、到着までに数日かかる
- ③大阪市内で作れば、新鮮で、
輸送コストも抑えられる。つまり安価。

解決策

①大阪市内で40～50代の若手と
イタリア野菜を作ろう

※新しいブランドを立ち上げよう

②イタリア料理店と種屋さん、
イタリア領事館を**仲間**にしよう

※イタリア領事館が大阪にあるのもメリット

③うまく行ったら、他の農家も参加
市内農業がイタリア野菜の中心地に



事例 2

大阪市内の花農家と障がい者福祉の応援
高齢者福祉施設の介護レクの課題解決
寄せ植えキットの通信販売

都市農業の縮小を応援する

2018年～現在 大阪府大阪市

CLIENT／大阪市経済戦略局

未来を共につくる活動



事例2

大阪市内の花農家と障がい者福祉の応援

高齢者福祉施設の介護レクの課題解決

寄せ植えキットの通信販売

01

社会課題の
中にある
ニーズをさぐる

Reserch

生産者の課題

- ・都市部は農地が狭く、流通量が少ない

高齢者福祉施設の課題

- ・利用者から寄せ植えレクの希望が多く、準備が大変

02

チームの
中にある
シーズを書きだす

Skills Matrix

チームのスキル

- ・ ネット通販の簡単なホームページをつくれる
- ・ 介護レクリエーションの情報誌とのつながりがある
- ・ 障がい者福祉施設とのつながりがある

03

世の中の
先進事例の
アイデアをしらべる

Marketing

ソーシャルビジネス

- ・ 土と花に触れると認知症の改善に役立つといわれる
- ・ 寄せ植えのサブスクリプションが広がっている
- ・ 農福連携への注目が高まっている

04

2つ以上の
ニーズと
アイデアをかけ算

Collaboration

ニーズ①：生産者が抱える問題

ハッピー：都市部の数多くの福祉施設へ花が流通する

ニーズ②：福祉施設の問題

ハッピー：スタッフの準備の時間が省けて、利用者も笑顔に

NPO法人チュラキューブが取り組んでいること 未来を共につくる活動



障がい者が 梱包と配送を担当 ----- 関西の福祉施設と 連携する都市型の 農福連携サービス

「大阪市内の花屋」×「介護レクリエーション」×「寄せ植えキット」
Mini Gardening-kit
ミニガーデニングキット

高齢者福祉施設で、
季節の花と土を
楽しもう！

お花が3種
毎月届く！

送料別途
980円
（セット）

6
セットから
お届け

高齢者福祉施設の新しい「介護レクリエーション」に
花苗の寄せ植え体験を取り入れてみませんか？

大阪市内の花屋さんが愛をいっしょに込めて育てた、季節に合った花が
あなたの施設に届きます。また、花と土に触れる寄せ植え体験は、認知症予防にも
効果があるとされており、施設でのレクリエーションにもぴったりです。
お見送り、詳細は、以下QRコードから800サイトへどうぞ。

大阪市花き生産組合プロデュース
フラワーガーデンセラピー

NPO法人チュラキューブ <http://chura-cube.com/mini-garden/>
550-0816 大阪市西淀川区江口3丁目1番1号 4F Mail: atayori@chura-cube.com
TEL: 06-6226-7993 FAX: 06-6226-7998





事例 3

京都の伝統工芸の後継者不足を
集中力の高い障がい当事者が解決
伝統工芸の後継ぎづくり

伝統工芸の縮小を応援する

2016年～2019年 京都府京都市

CLIENT / 京都市保健福祉局

未来を共につくる活動



事例3

京都の伝統工芸の後継者不足を

集中力の高い障がい当事者が解決

伝統工芸の後継ぎづくり

01

社会課題の
中にある
ニーズをさぐる

Reserch

伝統工芸の課題

- ・売り上げが低下し、若手人材も集まらない

障がい者福祉の課題

- ・対人は苦手だが、器用で集中力の高い人材がいる

02

チームの
中にある
シーズを書きだす

Skills Matrix

チームのスキル

- ・京都の伝統工芸の中でも、「和ローソク」「京鹿の子絞り」などご縁ができた
- ・障がい者福祉の就労支援に詳しい知識がある
- ・デザインに詳しい

03

世の中の
先進事例の
アイデアをしらべる

Marketing

ソーシャルビジネス

- ・京都でも西陣織に関わる福祉施設がすでにある
- ・島根県の岩見では神楽の衣装の修復に福祉が活躍
- ・企業や工場も福祉施設に手作業を委託している事例

04

2つ以上の
ニーズと
アイデアをかけ算

Collaboration

ニーズ①：伝統工芸の問題

ハッピー：精神障がいのある
絵師の正社員雇用が決まった

ニーズ②：福祉施設の問題

ハッピー：百貨店にも並ぶ工芸
品づくりの現場に就職できた

NPO法人チュラキューブが取り組んでいること 未来を共につくる活動



工芸と福祉が 雇用でつながる 京都市で初の伝統工芸 × 福祉 = 伝福連携



第3版 京都市 和ろうそく店、絵付け師採用

障害者伝統工芸職人に

後継者不足に悩む京都市の伝統工芸で、障害者を職人として雇用する試みが進んでいる。京都市伏見区の和ろうそく製造販売「中村ロソク」は4月、1人を絵付け師として採用する。18・19日、障害者が絵付けした和ろうそくの展覧会を左京区のみやこめついで開き、雇用に向けた取り組みを紹介する。

伝統工芸では、職人の高齢化などで技術の継承が危殆となる一方、人材不足が深刻化している。職人の仕事は過酷だが個人のペースで働きやすく、障害者が活躍できる可能性が高いとして、京都市では昨年から、福祉、知的障害や精神障害

中村ロソクでは、和ろうそくに筆で絵を描く「絵付け師」の採用を目指してきた。昨年6月か

18・19日左京で展示 雇用に関心を

持った約20人が、工芸見学会や絵付けを体験。参加者は初めて伝統工芸に触れる人が多く「細かい作業が楽しい」と熱中していたという。その後も就労体験や面接などを行い、4月から1人の採用が決まった。

（井上真央）

小規模な事業所が多い伝統工芸では、採用後に不安を覚える企業も多いという。中村ロソクの田川広一さん（64）は「伝統工芸でも、作業行程を分かりやすくしたり分拍したりすれば、障害者が活躍する可能性は十分ある。うちの例を知って関心を持つ職人が増えてほしい」と話す。

展覧会は午前10時から午後5時。障害者35人が制作した和ろうそく約100本や、作業工程を展示する。無料。京都市左京区ふれあい館4075（762）2670。

社会課題

①伝統工芸の職人が高齢化

昭和20年前半の世代が多い印象。
今後5年間でたくさんの職人が引退してしまう。

②レンタル着物の台頭・消費の変化

成人式で女性が着る着物のほとんどはレンタル。
伝統工芸の商品を買う世代も高齢化している。

③コロナ禍で京都への旅行者が激減

頼みの綱だった海外からの旅行者はゼロに。
国内観光客も2020年以降、激減。

ポイント

- ① 伝統工芸の職人の仕事のほとんどは
単純作業の繰り返し。
- ② 知的障がいをはじめ、障がいのある
人材には、単純作業が得意な人がいる。
- ③ 正規雇用に比べて障がい者雇用は
労働時間も自由、賃金も高くはない。

※当事者には障がい者年金が別途発生する場合も

解決策

①伝統工芸の工房に通い、
障がいのある人でもできる**キット**を作る

※和ろうそく、京鹿の子絞り

②キットを使い、福祉作業所に向けた
伝統工芸の**体験会**を開催

※自分が手掛けた伝統工芸の商品が、百貨店に並ぶという喜び

③体験会に参加した人の中から、
伝統工芸企業にマッチする**人材**を採用



事例 4

高齢化が進む**団地**の102号室で
障がい当事者が**高齢者**へランチを提供する
杉本町みんな食堂の運営

団地の縮小を応援する

2018年～現在 大阪府大阪市

PARTNER／大阪府住宅供給公社

未来を共につくる活動



事例 4

高齢化が進む団地の102号室で

障がい当事者が高齢者へランチを提供する杉本町みんな食堂の運営

01

社会課題の
中にある
ニーズをさぐる

Reserch

団地の課題

- ・空き室が増え、住民の孤食が広がっている

障がい者福祉の課題

- ・企業の障がい者雇用のハードルが高く、離職も多い

02

チームの
中にある
シーズを書きだす

Skills Matrix

チームのスキル

- ・カフェ運営の経験者がいる
- ・栄養士の資格者がいる
- ・障がい者雇用詳しい
- ・地域の高齢者へのヒアリングができる

03

世の中の
先進事例の
アイデアをしらべる

Marketing

ソーシャルビジネス

- ・認知症の高齢者がスタッフとなるカフェが人気
- ・団地の1Fをランドリーにするコミュニティがある
- ・団地の1室で総菜を提供する食堂がある

04

2つ以上の
ニーズと
アイデアをかけ算

Collaboration

ニーズ①：団地の問題

ハッピー：空室10室も埋まり、住民につながりが生まれた

ニーズ②：福祉施設の問題

ハッピー：障がい当事者と高齢者が助け合う職場が生まれた

NPO法人チュラキューブが取り組んでいること 未来を共につくる活動



2019年
グッドデザイン賞

2019年
健康寿命を伸ばそう
AWARD受賞



社会課題

①高齢化が進み、空室が増え
孤食が広がっているマンションが増加

※大阪府住宅供給公社が抱える杉本町のマンションは、
71部屋中20部屋が空室。51部屋のうち35部屋が高齢化

②自治会の担い手はなし。
隣には誰が住んでいるかわからない
51部屋のうち35部屋が高齢の単身者。

③2033年には全国の1 / 3 が空き家に

ポイント

- ① **住民さん**はゆるやかに
つながれる**居場所**を求めている。
- ② **高齢化と孤食**は団地だけでなく、
地域全体にも見られる。
- ③ **コロナ禍**で企業は障がい者の
雇用が難しくなっている

※2021年に100人につき、2.3人へ

解決策

①空室だった102号室を、1食350円。
月水金のみオープンするランチ食堂に

②働くスタッフは企業に雇用された
障がい者スタッフたち

※誰かのために働く喜び。施設よりもはるかに高い賃金。

③障がい者スタッフは本社ではなく食堂
に在籍出向。企業のCSRを担う人材に

※食堂の家賃はゼロ、人件費もゼロ。経済負担は少なく、持続可能な居場所に

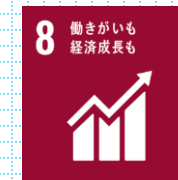


Chapter 3

今、力を注いでいる可及的速やかに
解決をしたい、社会課題への取り組み

今、力を注いでいる

可及的速やかに解決をしたい、社会課題への取り組み



コロナの影響で障がい者の解雇率は40%増

2021年3月1日から法定雇用率は、2.3%へ

ハードルが高まる企業の障がい者雇用と
地域の社会活動の人材不足の
2つの課題を解決する新しい仕組み

とある大手企業の人事担当からの相談



- ▶ 「ハローワークしか求人方法がわからない」
- ▶ 「雇用をしても現場の障がい者理解が深まらない」
- ▶ 「また障がい者が辞めてしまった」



中川

福祉施設とつながっていますか？

福祉施設の担当さん、なんとなく苦手で...

企業も当事者もプラスになる障がい者雇用の方法、
彼らが働きがいを感じられる仕事づくり...
って、実現できないんですかね？



障がい当事者も企業もハッピーな仕事づくりとは！？



人事担当

コロナ禍以降の企業人事担当者から ご相談いただく内容




テレワークが増えたので、
障がい者スタッフのケアをする**担当者がいない**…

テレワークが増えたので、
業務の中で生まれる**軽作業が激減**してしまって仕事が…

法定雇用率（100人あたりの企業の障がい者雇用の義務）
が、**2021年3月1日から、2.2%→2.3%にアップ**…





障がい者スタッフが、
社会課題を解決する“未来のヒーロー”になる。

Universal

ユニリク

Recruiting

Ver
2



障害者の働き方に多様な選択肢を 大阪

05月23日 18時37分



障害がある人の雇用についてです。

企業や自治体には、一定の割合で障害者を雇用することが義務づけられていますが、その数は全国的に伸び悩んでいます。

こうした現状を変えるため、新たな仕組みで障害者の仕事の選択肢を増やそうという取り組みが大阪で始まっています。

<https://youtu.be/kYLb4NrI7Jk>

既存モデル

障がい雇用スタッフを社内で雇用



障がいスタッフの
社内での働き方



企業

法定雇用率が
アップし
新たな雇用が必要

社内現場

在宅ワークで
スタッフのケアは
どうする？

障がいに詳しい
専門職員がいない

長続きする
障がい者人材と
出会えない

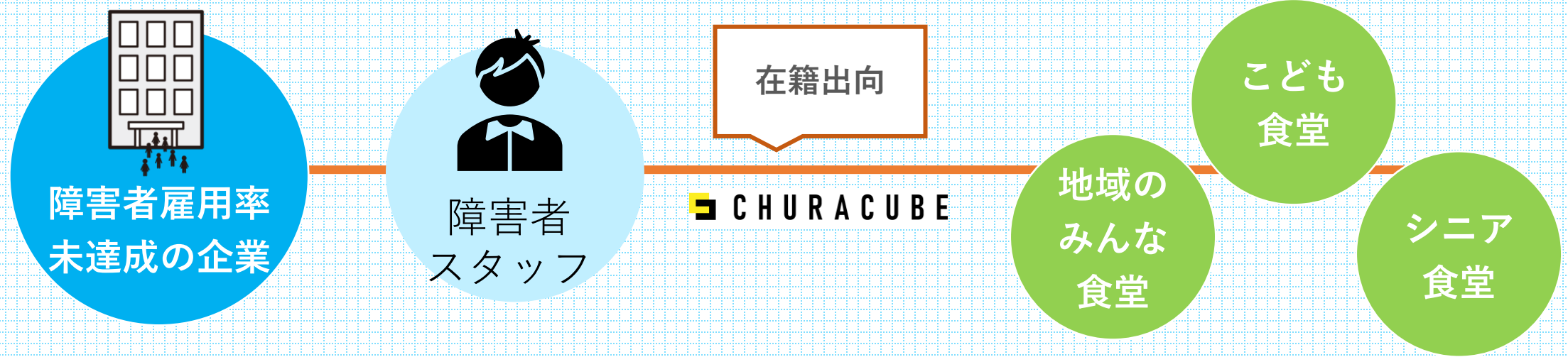
S D G s 時代の
社会貢献活動を
探している

D X 時代到来で
清掃や軽作業など
出せる仕事がない

企業は単純作業で
スタッフのQOLを
高められるのか？



障がいスタッフの
地域での働き方



企業

法定雇用率が
アップし
新たな雇用が必要

障がい者

誰の役に立つため
に働くかを
イメージしやすい

多世代に支えられ
親亡き後への
生活力が身につく

長続きする
障がい者人材と
出会えない

SDGs時代の
社会貢献活動を
探している

障がい者への
理解のある職場で
長期的に働ける

団体

障がい者の参画で
人材不足が解決し
社会支援が拡大

障がい者スタッフが、
社会課題を解決する“未来のヒーロー”になる。

Universal

ユニリク

Recruiting

Ver

2

担い手を求める

地域食堂と

障がい者を

雇用でつなぐ

- ① **企業は障がい者スタッフの
活躍の場を地域に作れる**
- ② **離職が少なく長期の雇用が実現**

企業雇用になると

障がい者の月収8～16万

障がい者にとって

誰かの役に立つ仕事を

生み出す。

×

- ① **誰のために働くか
をイメージしやすい**
- ② **やり甲斐を感じられる仕事**
- ③ **施設より格段に高い賃金**

高齢化が
障がい当
杉本町

CREATIVE RESTART THINKING

スタートの考え方

杉本町

みんな食堂



団地を管理している「大阪府住宅供給公社」と提携
「空き室問題×高齢者の孤食支援×障がい者就労」

gg

援する

府大阪市

宅供給公社

01

社会課
中にあ
ニーズ
さぐる
Reserc



02

チーム
中にあ
シー
書きだ
Skill

2019年グッドデザイン賞
健康寿命を伸ばそうAWARD

者がスタッフ
が人気
ランドリーに
ティーがある
総菜を提供す

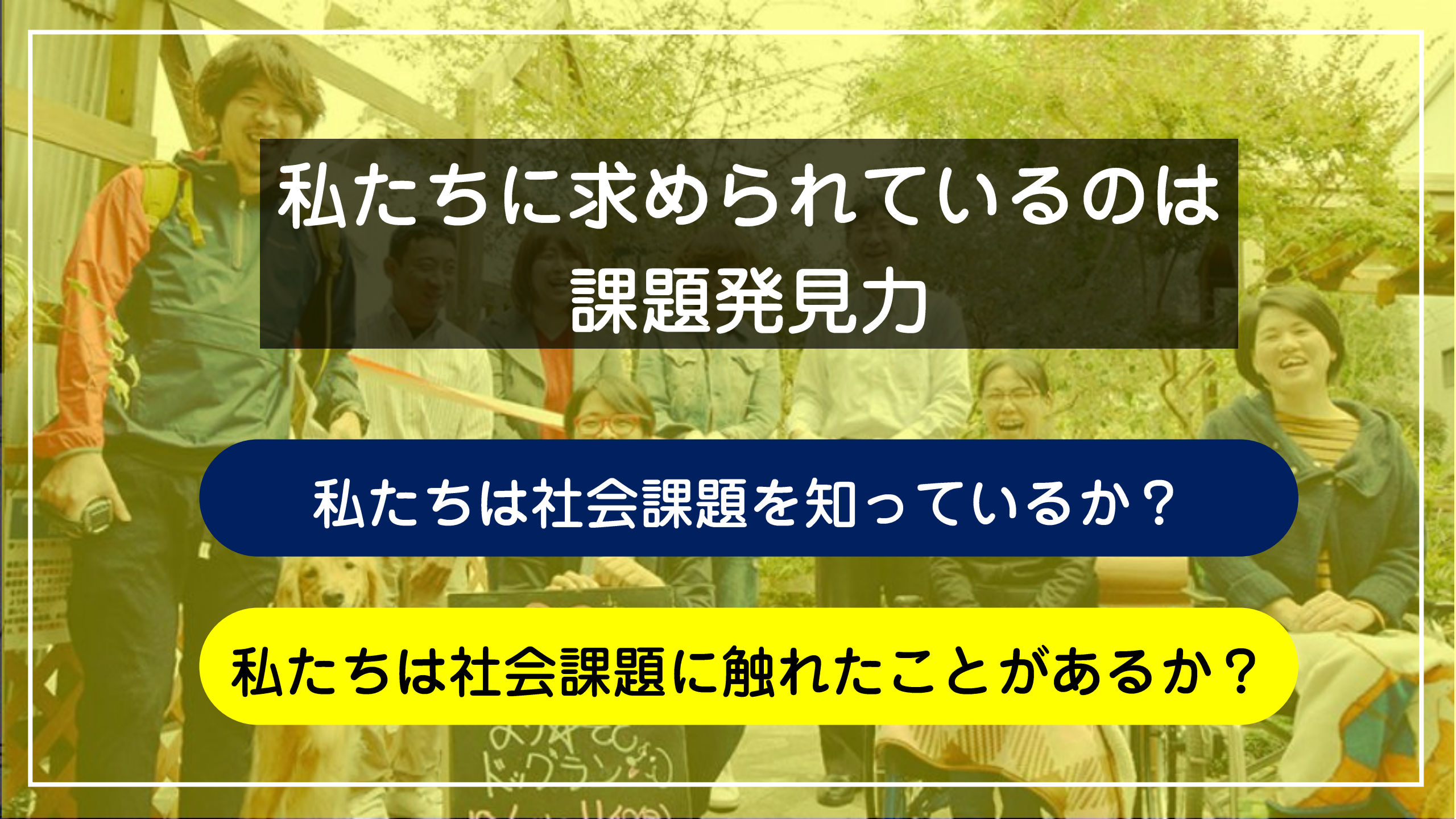
団地の問題

0室も埋まり、
が生まれた

社施設の問題

当事者と高齢
易が生まれた



A group of people, including a man in a blue and orange jacket on the left and several women, are smiling and looking towards the camera. They are outdoors, with trees and a building in the background. A dog is visible in the lower left foreground. The image has a warm, yellowish tint.

私たちに求められているのは
課題発見力

私たちは社会課題を知っているか？

私たちは社会課題に触れたことがあるか？



担い手を求める地域が 直面する課題って？

- ・ 担い手不足の「林業」「畜産業」
- ・ 技術を未来につなげたい「飲食」「工場」
- ・ 高齢者が増え続ける「商店街」「地域の商店」
- ・ 人件費を生み出しづらい「こども食堂」
- ・ 収入が生まれづらい「動物愛護」「困窮者支援」

大阪市の農業の世界で起きていること



大阪市24区の農地を合わせても
大阪城公園の大きさよりも小さい



花農家は平野区・住吉区に多く、10軒しか育てていない



面積が小さいからこそ、収穫量が少なく、
ショッピングモールや大型スーパーで売れない



2022年に都市部の農地を
農家は売ることができるよう法律が変わる



困っている人がいる



大阪府の漁業の世界で起きていること



高度成長期の乱獲により、魚の数が減っている。
下水処理などの向上により水草が減少、魚が卵が産めない



魚がたくさん獲れず、
漁師さんの収入が下がっている



高齢化が進み、若者の担い手も不足している



海外の魚が関空からすぐに届く仕組みができている



困っている人がいる



京都市内の伝統工芸の世界で起きていること



既存顧客の高齢化、レンタル着物などの拡大などにより
伝統工芸品の売り上げが減少



国産の材料の確保、職人の高齢化など
継続が困難に



新型コロナの影響で外国人観光客がいなくなり、
国内観光客も減少しつつけている



京都市では74品目の伝統工芸品があるが
近い将来、かなりの数が減少すると考えられている



困っている人がいる



全国の障がい者福祉施設の世界で起きていること



就職を目指す施設（B型）に通う障がい者さんは、
月給が全国平均16,000円とかなり低い



福祉施設で作ったパンやクッキーを売ろうにも、
近所にコンビニやショッピングモールがあって売れない



福祉施設で働く職員は「福祉支援」の専門家なので、
商品開発や営業の専門家ではない



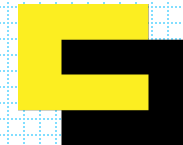
結局、障がい者当事者は就職をすることができず、
生活も困難になっている



困っている人がいる



ここで気づいたこと



世の中は
困りごとで
満ちあふれている！

○歴史×観光



観光戦略・地域教育
プロデュース
文化庁 淡路島日本遺産
観光促進プロジェクト
淡路島 日本遺産
(2016～)

○商店街×移住促進



商店街アドバイザー
淡路島の商店街を
地域みんなで活性
よりあいそとまち
SUMOTO
(2018～)

○都市農業×農家支援



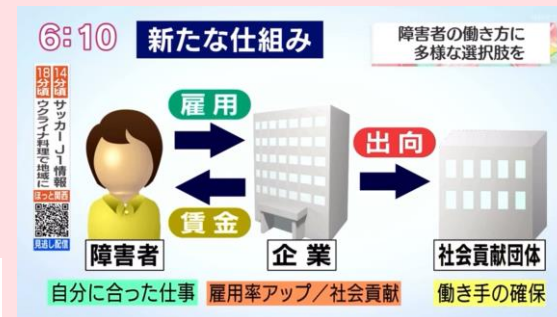
農家と新規ビジネスを立案・運営
大阪市内の野菜農家×大阪市の有志
×種子製造企業×障がい者福祉
大阪市内でのイタリア野菜
「おおさかイタリア野菜研究ラボ (2020～)」
※2022年4月・5月 NHK「ほっと関西」放送
読売放送「TEN」放送

○団地×高齢化×障がい者支援



高齢者の孤食が多い大阪市住吉区の団地で
障がい者が運営するランチ食堂を運営
杉本町みんな食堂 (2018～)

○企業の障がい者雇用×ソーシャルビジネス



企業で働く障がい者スタッフが、地域の社会課題解決の
ヒーローになる。全く新しいソーシャルビジネスを推進
企業の障がい者雇用×障がい者雇用×地域の社会課題
ユニクリク (2019～)
※2022年5月23日 NHK「ほっと関西」放送

○市役所でのプロ人材



奈良県生駒市役所 プロ人材として勤務
コミュニティデザイナー (2022～)

まちづくり



障がい者福祉



発信



教育



企業・NPO・地域 中間支援

○大阪ガス×社内へのCSR



大阪ガス 社内CSRコーディネート
ソーシャルデザイン
フォーラム (2019～)

○大阪ガス×寄付活動



寄付団体の選定・取材・発信
大阪ガス 社会貢献団体への寄付支援
ソーシャルデザイン+
(2022～)

○経済産業省×地域活性



関西の仕掛け人を発掘・取材
経済産業省 近畿経済産業局
関西から「キーパーソン」
を考える会 (2020～)

○大学での講師

関西大学 人間健康学部
(2017～)
社会起業論/雇用政策
近畿大学 文芸学部
文化デザイン学科
(2018～)
アートプロデュース論A

大阪芸術大学
デザイン学部
(2021～)
ソーシャルデザイン

○新聞・書籍・シンポジウム




毎日新聞 月1連載
「あしたに、ちゃんじ」 (2018～)



大阪万博に向け、連続登壇
日経SDGsフェス大阪・関西
(2020・2021・2022)



新聞取材をまとめた書籍を出版
SDGs時代のソーシャル
ビジネスが私たちの未来を変える
(SDGs経済出版)

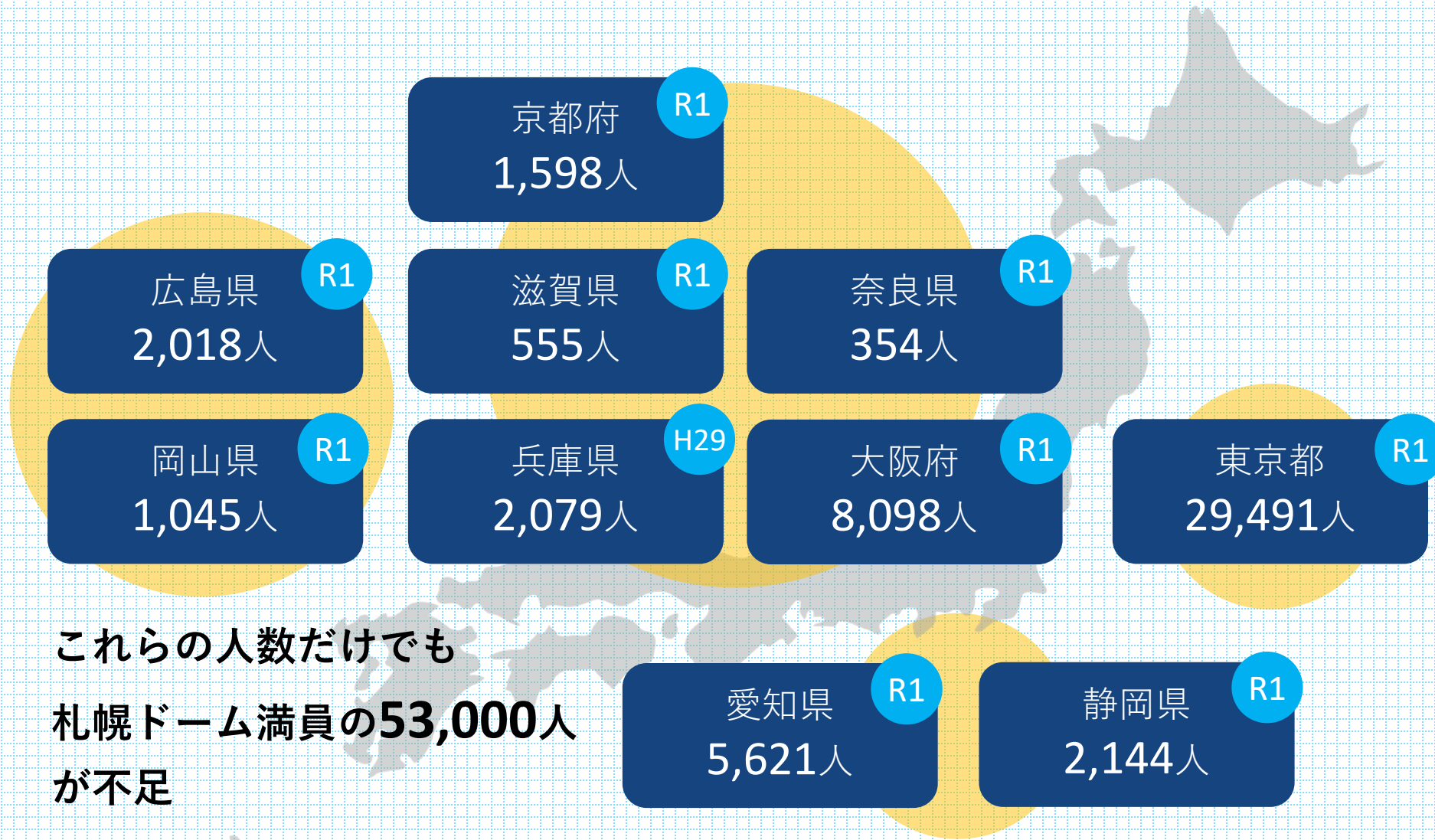
A group of people are seated in a circle in a room, likely for a meeting or discussion. In the background, there is a whiteboard and a projector screen displaying a blue and white graphic. The room has a warm, yellowish light. A woman in a white shirt is standing on the right side of the frame, holding a small object. The text is overlaid on a dark rectangular background in the center of the image.

私たちがこれから
関わるべき社会について

障がい者の雇用不足人数の現実



都道府県内、45.5名以上の雇用人数企業において、障害者雇用の不足している人数を集計し算出





人口減少時代。

世の中には**未来に残したい**産業がいっぱい。
そして、「担い手」さえ見つければ

持続可能になる仕事も多い。

企業の中ではなく、地域産業や地域活動で
彼らが**ヒーローになれる**可能性は、無限大。



「教職員」が暮らしている社会は

「教育社会」であって「地域社会」ではない。

「ビジネスマン」が暮らしている社会は

「ビジネス社会」であって「地域社会」ではない。

企業・社会・未来の自分にとって、

積極的に関わるをつくるべきなのは「地域社会」だ。



ご清聴、ありがとうございました



otayori@chura-cube.com



<http://chura-cube.com>

書籍を出版しました



SDGs時代のソーシャルビジネスが
私たちの未来を変える

～僕が出会った29人の社会起業家たち～
(SDGs 経済出版／2022年2月刊行)